読み解く

浴室にベッドや食卓…面影生かし改修

銭湯文化 冷めない思い

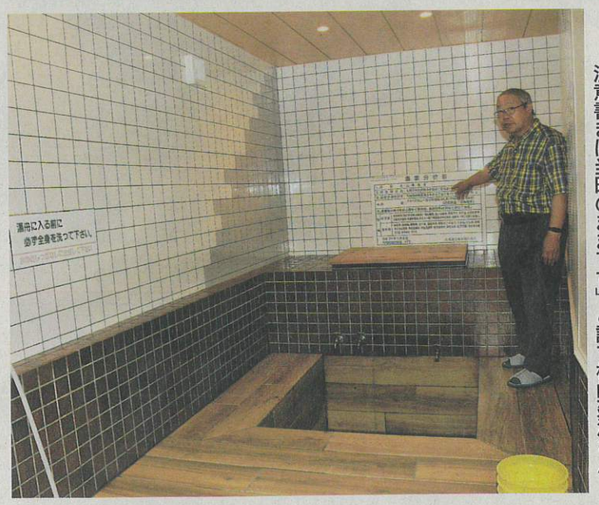
生活様式の変化などで減り続ける銭湯。道内では約100軒まで減り、最盛期だった半世紀前の1割以下の軒数になりました。そんな中、東京や京都などでは数年前から、廃業や代替わりなどの際、漫画コーナーやビアバーなどの娯楽を備えた「ネオ銭湯」に改修する動きがあります。道内ではまだそうした動きは広がっていませんが、廃業した銭湯をリノベーションし、往時の雰囲気が漂う宿泊施設などにした事例があります。「銭湯は無くなっても銭湯の文化は残したい」という思いが宿る元銭湯を訪ねると、銭湯を懐かしむ世代に限らず、若者や外国人らも引きつけていました。

銭湯の面影を残す無人ホテル「山鼻温泉屯田湯旅館」

屯田湯旅館の洗面器はもちろん、黄色いケロリン

屯田湯旅館のルーム2に残る、男湯と女湯の仕切り（奥）。体を洗っていた場所に6床のベッドが並ぶ

飲食を楽しめるようにしたSENTOの浴槽。「銭湯時代のものをできるだけ残しました」と話す赤井さん



男湯で使われていた浴槽の上に、新しく浴槽をつくった屯田湯旅館のルーム2の風呂。「温泉分析書や注意書きは当時のままです」と話す枡崎建治さん

ススキノ近くの「屯田湯」無人ホテル運営

札幌市中央区南9西8の無人ホテル「山鼻温泉屯田湯旅館」。ススキノ地区に近い住宅街にあり、「ゆ」と書かれたのれんが掛かっていました。2019年6月まで銭湯「山鼻温泉屯田湯」として営業し、翌年7月に今の形態になりました。

客室は、女湯だったルーム1（最大7人）と男湯だったルーム2（同6人）。二つの客室はレイアウトがかなり異なります。なぜだと思いますか。

「ススキノに近いので、（飲食店などで働く）女性のお客さんが圧倒的に多かったんです。女湯と男湯の広さは6対4くらいなんですよ」。無人ホテルの事業主で、銭湯・屯田湯を切り盛りしてきた枡崎（ますざき）建治さん（71）が教えてくれました。ルーム2には、女湯と男湯の仕切りが残っていました。つまりルーム2は男湯と「女湯の一部」ということになります。

両客室とも、浴室のタイルの壁は当時のままで、温泉成分を分析した表示や体重計も残っていました。居間や台所を備え、洗濯機もあります。

屯田湯は、枡崎さんの妻の父、二木利勝さんが1964年に開業。温泉を見事掘り当て、90年から温泉銭湯になりました。良質の温泉は評判を呼び、利用者が大きく増加。妻や枡崎さんが切り盛りするようになってからも多忙な日々は続きましたが、次第に利用客が減少、設備更新時期に合わせより無人でも運営できるようになりました。

開業から4年が過ぎ、稼働率は8割近く。宿泊料金はダイナミックプライシング（利用客の需要動向を考慮して価格を変える手法）で、ルーム1は3万2千円～、ルーム2は2万9千円～となっています。

が運営しています。建物自体は100年以上前に建てられ、大正時代から銭湯「草津湯」として営業していましたが、90年代半ばに廃業となりました。

浴場はカフェにリノベーションされ、当時のまま残された浴槽にはテーブルや座布団が置かれ

行の外国人、自転車・バイクの旅行者など多様な人たちが宿泊するそうです。宿泊客には、軟白ネギの収穫やホタテの耳つり、八雲発祥の木彫り熊作りといった体験プログラムを用意しています。

開業から6年、苦労したことを赤井さんに尋ね

いったんはのれんを下ろしました。

しかし、建物の一部を残して「銭湯文化」を継承できないかと、無人ホテルの開発・運営などを手掛けるマッシブサッポロ（札幌）に相談。同社が総合的にプロデュースし、事業計画書の立案や業者選定のほか、開業後の運営も担っています。

このリノベーションの企画を担当した同社の小川克己さん(35)は「『銭湯』はものすごい強み。屯田湯の歴史を聞き、設備や備品などを可能な限り残すことを意識しました」と述べました。目玉の温泉については「低温で濃度の濃い源泉」「お湯」「水」が出る三つの蛇口を設置し、利用者自身が温度・濃度を調整できるように工夫。それに家族連れ、団体旅行、学生のグループ、外国人観光客など幅広い層が宿泊しています。

枡崎さんは「天然温泉という『売り』を残す方法を模索していました。高齢者施設なども考えましたが、宿泊施設という形で良かった。先代の掘った温泉が残り満足」と話します。

八雲の「草津湯」ゲストハウスに変貌

次に向かったのは渡島管内八雲町中心部にあるゲストハウス＆カフェ「SENTO（セントー）」（末広町）。開業は18年で、NPO法人やくも元気村飲食を楽しめるようになっています。同法人事務局長の赤井義大さん(34)は「築100年以上の建物で銭湯としての歴史も刻んでおり、価値があると思いました。われわれが買っていなければ、取り壊されていました」と話します。

銭湯に隣接する経営者の住居部分はゲストハウスに改修。木造の柱や梁（はり）など日本家屋の良さを味わえます。客室は全3室で、タイプは個室（大人1人4千円。2人なら7千円、3人なら9千円）、男女混合客室（大人3千円。最大4人）、女性専用客室（同）です。個室はほぼ毎日埋まっており、全3室の稼働率は7割ぐらいといいます。北海道新幹線などの工事関係者をはじめ、家族連れや個人旅

るとまず、初期投資費の工面を挙げました。特に改修費は数千万円規模に及ぶため、1年越しで準備し、農林水産省の農山漁村振興交付金事業に選ばれました。建物の改修費の半額をこれで賄ったそうです。ほかにも、運営後の黒字化のために、人を呼び込む体験プログラムを考えるのが大変だったそうです。

苦労はありますが、赤井さんはSENTOの存在意義を強調します。「昔の銭湯には社交の場の機能がありました。SENTOではイベントを実施するなど、宿泊客と住民、住民同士がつながるきっかけの場にもなっています」

（経済部デジタル委員　日栄隆使）

施設の再利用 新たな価値創造

まち文化研究所（札幌）を主宰し、道内外の銭湯事情に詳しい塚田敏信さん(74)と一緒に、銭湯や銭湯文化について考えたいと思います。

塚田さんは1998年出版の著作「いらっしゃい北の銭湯」で、廃業後に再生された銭湯として、函館市宝来町の元「衛生湯」を紹介しています。21年（大正10年）に建てられ、86年に美容室になり、2年ほど前に古着・雑貨・古本などを扱う店「晴耕雨読・庶暮書房」が入居しました。

妻と店を営む菊池健一さん(41)は「美容室になる前に全面的に改装されたのでしょう。僕らが入った時には今のような状態でした。外観が格好良く、気に入りました」と話します。塚田さんは「大正時代や昭和初期に建てられた銭湯は味わいのあるものが多く、衛生湯はその先駆事例の一つ」と説明。道内ではデイサービス施設やサウナになった例もありますが「再生されるケースは珍しく、大半は取り壊されてきた」ということです。

全国公衆浴場業生活衛生同業組合連合会によると、組合に加入していた銭湯は68年の1万7999軒がピーク。その後は減り続け、今年4月1日時点で1653軒とピーク時の9%になりました＝**グラフ**＝。道内も同様で、北海道公衆浴場業生活衛生同業組合によると、組合に加入する銭湯は7月末時点で101軒。「全国浴場銘鑑」の69年版には「北海道組合」

銭湯関連の品々が展示されている旧寿原邸内「小樽まち文化博物館」で銭湯について語る塚田さん

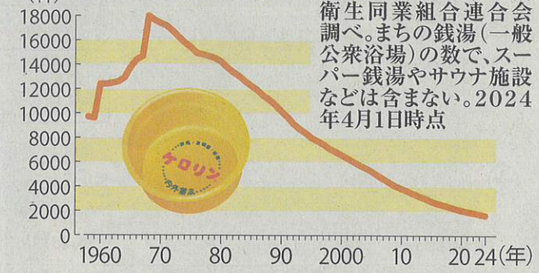
に加入していた銭湯は1097軒とあり、当時の9%まで減少。札幌でも27軒まで減り、ゼロ軒や1～3軒の市町村が増えています＝**表**＝。

銭湯が減っている理由を塚田さんに聞くと、各家庭での風呂の普及に加え、80年代に都市部で増えたスーパー銭湯や、90年代に郡部に続々とできた公共の温浴施設などの影響を挙げました。今後は後継者不足、設備更新費用、燃料の高騰などが影響し、廃業ペースが上がるのではないかと危惧しています。

塚田さんは元高校教諭で、40年以上にわたり、各地の銭湯を巡ったり歴史を調べたりしています。習俗的な意義やメンタル面への効果などに興味を引かれるといいます。廃業した銭湯からホーローの看板などの備品を譲り受け、小樽市東雲町

古着・雑貨・古本を扱う店「晴耕雨読・庶暮書房」などが入る函館の元「衛生湯」

全国の銭湯数の推移



※全国公衆浴場業生活衛生同業組合連合会調べ。まちの銭湯（一般公衆浴場）の数で、スーパー銭湯やサウナ施設などは含まない。2024年4月1日時点

の旧寿原邸内に7月にオープンした「小樽まち文化博物館」で展示しています。

活動の根本には銭湯を無くしたくないという思いがあると言い「今の私たちが銭湯を残す方法を見つけられなくても、次の世代が独自の価値を見いだして工夫し、新しいものを生み出すかもしれない。何も残っていなければ、次の世代に与えるヒントも無くなってしまいます」と強調します。

それを体現した一例が「ネオ銭湯」とも言えますが、道内には広がらないのでしょうか。塚田さんは「東京や京都に比べると銭湯文化と呼べるものが育っていない。人口密度も低く、支えられる

北海道内の銭湯数

市町村	軒数	市町村	軒数
札幌市	27	旭川市	13
函館市	10	釧路市	9
帯広市	6	小樽市	5
室蘭市、苫小牧市、江別市	3		
根室市、根室管内別海町、後志管内余市町、芦別市	2		
檜山管内江差町、渡島管内長万部町、日高管内浦河町、日高管内新ひだか町、釧路管内厚岸町、オホーツク管内斜里町、網走市、北見市、石狩管内当別町、岩見沢市、空知管内奈井江町、上川管内美瑛町、砂川市、稚内市	1		

※北海道公衆浴場業生活衛生同業組合の資料を基に作成。2024年7月末時点

だけの利用者がいないのでは」と推測します。

従来の銭湯が廃業し、ネオ銭湯も広がらなければ、道内で銭湯が減っていくのはやむを得ない面もあるのかもしれません。ただ、銭湯文化は残したい。その一つの方法として、銭湯のリノベーションを見てきました。銭湯の雰囲気を少しでも感じられる施設が残っていれば、次の世代が独自の価値を見いだして、銭湯文化を引き継いだ新しいものを生み出してくれると期待しています。

デジタルに詳報